室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

4と4の倍数を表わすハワイ語の伝統的数詞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2012-02-02 キーワード (Ja): ハワイ語, 数詞 キーワード (En): 作成者: 塩谷, 亨 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/701

室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

4と4の倍数を表わすハワイ語の伝統的数詞

その他（別言語等）のタイトル	Hawaiian traditional numerals denoting four and multiples of four
著者	塩谷　亨
雑誌名	北海道言語文化研究
巻	8
ページ	73-83
発行年	2010-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10258/701

北海道言語文化研究 北海道言語研究会
No. 8, 73-83, 2010.

４と４の倍数を表わすハワイ語の伝統的数詞*

塩谷亨

Hawaiian Traditional Numerals Denoting Four and Multiples of Four

Toru SHIONOYA

Abstract： Hawaiian has two counting systems, the common decimal counting system and the peculiar traditional counting system. In the Hawaiian traditional counting system, numbers are expressed by four and its multiples. The special numerals used in the traditional counting system are *kāuna* ‘4’, *ka‘au* ‘40’, *lau* ‘400’, *mano* ‘4,000’, and so on. Those special numerals have grammatical properties similar to the numerals loaned from English, such as *haneli* ‘100’ and *kaukani* ‘1,000’. They, in the same way as nouns, can occur after the plural marker *mau*, the plural article *nā*, and some possessive forms.

キーワード：ハワイ語　数詞

1. 序論

1.1. 一般的に用いられる数詞

一般的に用いられるハワイ語数詞は通常の 10 進法システムに対応するものである。文法的な特性から大きく三つに分類することが出来る。一桁の数（1、2、3、4、5、6、7、8、9）を表わす数詞(以下、NUM_1 と表記する)、二桁の数の 10 の位（10、20、30、40、50、60、70、80、90）を表わす数詞（以下、NUM_2 と表記する）、三桁以上の数の単位（百、千、百万など）を表わす数詞（以下 NUM_3 と表記する）の三つである。

表１　一般的に用いられるハワイ語数詞 [1]

NUM_1	1 kahi 2 lua 3 kolu 4 hā 5 lima 6 ono 7 hiku 8 walu 9 iwa
NUM_2	10 ‘umi 20 iwakālua 30 kanakolu 40 kanahā 50 kanalima 60 kanaono 70 kanahiku 80 kanawalu 90 kanaiwa
NUM_3	100 haneli (hanele / haneri)　1,000 kaukani (tausani)　1,000,000 miliona 1,000,000,000 piliona　1,000,000,000,000 kiliona (keliliona / teriliona)

形を見れば明らかなように、NUM3 は英語からの借用語（それぞれ hundred, thousand,

million, trillion から）である。

1.2.　4 を基準とする伝統的な数え方で用いられる数詞

前節で示したような通常の 10 進法的な数え方に加えて、ハワイ語には 4 を基準として、4、40、400 等を一まとまりとして数える伝統的な数え方がある。そこでは、前節で示した一般的な数詞以外に、伝統的な数詞（以下、NUM_4 と表記する）が用いられる。NUM_4 としては Beckwith (1932:113)に以下の形がリストされている。

表 2　4 とその倍数で数える際に用いられる伝統的なハワイ語数詞 [2]

NUM_4	4 kāuna　40 ka‘au (kanahā)　400 lau　4,000 mano　40,000 kini 400,000 lehu　4,000,000 nalowale

これらの伝統的な数詞 NUM_4 と一般的な数詞 NUM_1 を併せることで、いろいろな数が表わされる。例えば、12 という数は次のようになる。

(1) ‘e-kolu　kāuna
　CLS[3]-3　4
　「4 が 3 つ(=12)」　Elbert and Pukui (1979:162)

このように NUM_4 である kāuna ‘4’の前に NUM_1 である *kolu* ‘3’をつけて「4 が 3 つ」すなわち「12」を表わす。4 で割り切れない余りがある場合については次のように表わされる。

(2) ‘O　ke　kāuna　keu　ho‘o-kahi,..
　NC　ART　4　余り　CLS-1
　「4 余り 1 (=5)だ..」　Kahiolo (1978:171)

このように、5 個という数量を伝統的な数詞システムで表わす際には、4 で割り切れない余りについて、端数として「余り 1」のように表わす。[4]

1.3.　本稿の目的

数詞は Elbert and Pukui (1979:41) 等において、独立した一つの語類として立てられている。しかしながら、同じ数詞という語類に含まれているにもかかわらず、そこに含まれる要素間には文法的な特性の違いが見られる。後の節で見るように、NUM_1 と NUM_2 は他の語類との違いがより顕著な、すなわち、より数詞らしい特性を多く持っているのに対して、NUM_3 は NUM_1 や NUM_2 と比べて名詞との類似がより著しい。このような数詞間の特徴の推移は(Corbett1978)のように、他の言語についても指摘され

ている現象である。

本稿では、NUM_4 の文法的な特性を観るために、様々なジャンルのハワイ語文献から収集した NUM_1、NUM_2、NUM_3、NUM_4 の用例を分析し、いくつかの文法的な特性について四者の比較を行う。その比較を通して、NUM_4 は、ハワイ語固有の数詞である NUM_1、NUM_2 よりもむしろ英語からの借用語である NUM_3 と類似しており、より名詞的な特性を持っているということを示す。

今回比較を行う文法的な特性として取り上げるのは次の通りである。形態論的特性として、分類接頭辞の付加、分配数詞接頭辞との共起、複合数詞の形成の三つ、統語論的な特性として、名詞の前への付加、複数小辞・複数冠詞との共起、k-所有形との共起の三つについて、それぞれ比較する。また、これ以外に、意味的な特性として、共起できる名詞に制限があるかどうか、序数の意味を表す用法があるか、の二つも観る。

2. 形態論的特性

2.1. 接頭辞‘e-の付加

Elbert and Pukui (1979:158)でも指摘されているように、NUM_1 は数詞特有の接頭辞が付加されてしばしば用いられる。最も一般的な接頭辞は‘e-であるが、kahi ‘1’については‘e-以外に、コピュラ要素と融合した接頭辞 ho‘o-も付加される。この接頭辞は分類辞だとされているが、実際には分類的な機能はほとんど担っておらず、数えられる対象がどんなものでも用いられる。

(3) ‘e-lua i‘a
CLS-2 魚
「2 匹の魚」Elbert and Pukui (1979:159)

(4) Ho‘o-kahi hale no ke kāne me ka wahine, ...
CLS-1 家 ～のための ART 夫 ～と ART 妻
「夫と妻等のための一つの家…」Beckwith (1932:65)

接頭辞‘e-の代わりに、累加的な意味を表わす‘a-が付加される場合もある。[5]

(5) ..., ‘a-lua eo o Kapunohu i nā keiki.
CLS-2 負け ～の K. ～に ART-PL 子供
「子供たちへの Kaupunohu の二つ目の負けだ。」Fornander (1918-1919:421)

これらの接頭辞‘e-、ho‘o- 、‘a-はいずれも NUM_1 に付加されるもので、NUM_2 や NUM_3 には付加されない。NUM_4 についても、NUM_2 や NUM_3 と同様に、これらの接頭辞は付加されない。

2.2.　複合数詞の形成

Elbert and Pukui(1979:158)が示すように、NUM_1 と NUM_2 は-kūmā-又は-kumamā-という結合辞を介して結合し、二桁の数を表わす複合数詞を形成する。

(6) ... ‘umi-kūmā-lima makahiki
　　10-CON-5　年
　　「...15 年」Fornander (1916-1917:433)
(7) ...he　iwakālua-kumamā-iwa hanauna;
　NC-ART[6]　20-CON-9　世代
「....29 世代;」Fornander (1916-1917:407)

NUM_3 については-kūmā-のような結合辞を介して他の数詞と結合し、複合語を形成することはない。NUM_3 を他の数詞と組み合わせて用いる場合には、単に二つ単語の連続として並べるか、前置詞 me「～と」を介して結びつけるかである。

(8) ho‘o-kahi　tausani, ‘e-walu　haneri　me　kanaha-kumamā-kahi.
　CLS-1　1000　CLS-8　100　～と　40-CON-1
　「1841(年)」Hawaiian Laws (1994)

NUM_4 についても、NUM_3 と同様に、結合辞によって他の数詞と結合されて、複合語を形成するようなことはない。

2.3.　分配数詞接頭辞 pā-との共起

もう一つ、数詞特有の接辞として、Elbert and Pukui(1979:159)は「～個ずつ/一時に～個」という意味を表わす分配数詞を形成する接頭辞 pā-を挙げ、その例として、NUM_1 に付加された例 pālua「一度に 2 回」、NUM_3 に付加された例 pā-kaukani「千ずつ」等の形を挙げている。彼らの挙げた例にはたまたま NUM_2 の例がなかったが、Pukui and Elbert (1986:321)には例えば pā‘umi「10 ずつ」等の NUM_2 の例も示されている。

興味深いことに、Elbert and Pukui(1979:160) には、接頭辞 pā-が NUM_4 に付加された形として、pā-kāuna「４ずつ」、pā-ka‘au「40 ずつ」が示されている。

2.4.　形態論的特性のまとめ

他の語類には見られない数詞特有の形態論的特性三つについて比較した結果、全てを持っているのは一桁数詞 NUM_1 で、NUM_2 は二つ、NUM_3 は一つのみを持っていることが示された。このことから、最も典型的な数詞が NUM_1 で、それについで、NUM_2 そして、NUM_3 と典型的な数詞から離れていくと考えることが出来る。NUM_4 は配分数詞接頭辞 pā-との共起は当てはまるが、その他については当てはまらず、借用語で

ある NUM_3 と同様の結果となった。

3. 統語論的特性

3.1. 名詞の前への付加

ハワイ語では、通常の名詞修飾語は名詞の後ろに置かれる。同じように、数詞も名詞の後ろに置くことが出来る。

(9) ke inoa hanohano ia i ho‘opili-‘ia iā lākou,...
ART 名前 名誉ある それ TAM 関係付ける-PAS ～を 彼ら
「それは彼らに関係付けられた名誉ある名前だ」Beckwith (1932:74)

(10)... a kapa-‘ia ma ia inoa ho‘okahi,...
そして 呼ぶ-PAS ～で その 名前 CLS-1
「...そしてその一つの名前で呼ばれる、...」Beckwith (1932:23)

(9)では名詞 inoa「名前」の後ろに名詞修飾語として状態動詞 hanohano「名誉ある」が置かれている。(10)では同じく名詞 inoa「名前」の後ろに数詞 ho‘okahi「１」が置かれている。

通常の名詞修飾語は専ら名詞の後ろに置かれるが、数詞は(10)のように名詞の後ろに置かれる以外に、以下のように名詞の前にも置かれる。

(11) ...a malaila i noho lō‘ihi ai ‘e-kolu anahulu.
そして そこに TAM 滞在する 長く DEM CLS-3 十日間
「...そしてそこに 30 日間滞在した。」Beckwith (1911-2:411)

(12) E uku nō ‘oia i kanakolu dala,...
TAM 払う INT 彼 ～を 30 ドル
「彼は 30 ドル払うべきであり...」Hawaiian Laws (1994:107)

(13) ...e hō−uku-‘ia ‘oia i ho‘o-kahi haneri dala.
TAM CAU-払う-PAS 彼 ～を CLS-1 100 ドル
「彼は 100 ドル払わされるべきである。」Hawaiian Laws (1994)

(11)では名詞 anahulu「十日間」の前に NUM_1 の kolu「3」が、(12)では名詞 dala「ドル」の前に NUM_2 の kanakolu「30」が、(13)では名詞 dala「ドル」の前に NUM_3 の haneri「100」がそれぞれ置かれている。

NUM_4 も同じように、名詞の前に置くことが出来る。

(14) ...e piha ana ‘e-lua ka‘au ‘anae i kahi wā ke laki nō ho‘i.
TAM 満たす DEM CLS-2 40 ボラ ～に ある 時 ～なら 運がいい INT

「運がよければボラ 80 匹を超えるだろう。」Kahā‘ulelio (2006:12)

(14)では NUM_4 の ka‘au「40」が名詞‘anae「ボラ」の前に置かれている。

3.2.　複数小辞 mau・複数冠詞 nā との共起

ハワイ語ではごく一部の限られた物を除き、単数･複数による名詞の語形変化はない。その代わり、複数のものを指していることを明確にするためには、複数小辞 mau や複数冠詞 nā を用いる。

(15) ...no　kona　mau kaikua‘ana a me kona　kaikunāne.
～について 彼女の PL 姉　～と彼女の 弟
「彼女の姉達と彼女の弟について...」Beckwith (1911-1912:569)

(16) ...‘a‘ole lākou　e　‘ai　i　nā　mea‘ai　owaho,...
NEG 彼ら TAM 食べる ～を ART-PL 食べ物 外の
「...彼らは外からの食べ物を食べない...」Beckwith (1932:23)

(15)では名詞 kaikua‘ana「姉」に複数小辞 mau が、(16)では名詞 mea‘ai「食べ物」に複数冠詞 nā がそれぞれ付加されている。

これら二つの複数指標は名詞の前にしばしば付加されて、その名詞が複数存在することを表わすものであるが、これらの複数指標が上の例で見た名詞の場合と同じように、しばしば NUM_3 の前に付加され、＜その NUM_3 が示す数が複数単位存在する＞という意味を示すことがある。例えば haneri「100」の前にこれらの複数指標が付加されると、「100 の～倍」或いは「数百」という意味を表わす。

(17) ...i　kēia　mau　haneri makahiki.
～に　この　PL　100　年
「...この数百年間に」Mookini (1985:23)

(18) ...mai　ka　haneri ho‘o-kahi, a hiki i　nā　haneri ‘e-lima,...
～から ART 100　CLS-1　～まで ART-PL 100　CLS-5
「...100 から 500(ドル)まで...」Hawaiian Laws (1994)

(17)の複数小辞 mau は makahiki「年」が複数あるということを示すのではなく、「100 年」という単位が複数存在することを示している。(18)は罰金の金額について述べている部分であるが、複数冠詞 nā は hanaeri「100」が複数存在することを示している。同じ(18)の中で、「100」を表わす部分では、100 が一つしか存在しないので、複数冠詞ではなく、中立的な冠詞である ka が付加されており、nā hanaeri と明確な対照をなしている。NUM_1 や NUM_2 がこれらの

複数指標によって複数の意味になる、例えば kolu「3」に複数指標がついて「3 つが複数存在する」又は「3 の倍数」を表わす等の用例は見られない。[7]

また、興味深いことに、(18)は haneri「100」の後に別の数詞‘e-lima が付加され、前の haneri を修飾している。これはまさに他の名詞が数詞によって後置修飾される場合と同じ構造である。

(19) A ua mahele-‘ia kēia papa i nā ‘ano ‘e-kolu.
そして TAM 分ける-PAS この クラス ～に ART 種類 CLS-3
「このクラスは 3 種類に分けられている」Beckwith (1932:11)

(20)=(18) ...mai ka haneri ho‘o-kahi, a hiki i nā haneri ‘e-lima,...
～から ART 100 CLS-1 ～まで ART-PL 100 CLS-5
「...100 から 500(ドル)まで...」Hawaiian Laws (1994:105)

(19)では＜nā+名詞+‘e- NUM_1＞という構造で、「～個の...」という意味を表わしている。(20)では、この構造の中のまさに名詞（ここでは‘ano「種類」）の位置に NUM_3（ここでは haneri「100」）が来ていることがわかる。

NUM_4 も NUM_3 と同様の特性を示す。すなわち、これらの複数指標が NUM_4 に付加されて、その NUM_4 が示す数が複数存在するという意味を表わす。

(21) ...he ho‘o-kahi ka‘au me nā kāuna ‘e-kolu;...
NC-ART CLS-1 40 ～と ART-PL 4 CLS-3
「52 匹(=40×1+4×3)」Kahā‘'ulelio (2006:144)

(21)では kāuna「4」の前に複数冠詞 nā が付加されて、「4 匹」という単位が複数、個の場合には 3 単位、存在するということを表わしている。同様に、複数小辞 mau も NUM_4 の前に付加され、その NUM_4 が示す数が複数存在することを表わす。

(22) ...he mau ka‘au o ia ‘ano.
NC-ART PL 40 ～の その 種類
「その種類には 40 の数倍種ある」(Ka Ho‘oilina 2003:10)

(22)では複数小辞 mau が「40(種類)」という数量の単位が複数存在することを示している。

3.3. k-所有形との共起

ハワイ語には三系統の所有形がある。そのうちの一つの k-所有形と呼ばれるものは、限定詞の一種であり、冠詞や指示詞など他の限定詞と同じ位置に置かれるものである。k-所有形はいろいろな名詞の前に付加されて所有者を表わす。例えば、ko‘u hale「私の家」では名詞

hale「家」の前に k-所有形 ko‘u「私の」が付加されている。又、ko kāua hale「私たちの家」では、ko kāua「私たちの」が k-所有形である。このように、k-所有形は、ko‘u「私の」のように単数人称代名詞と融合した形か、ko kāua のように＜ko 又は ka＋名詞句＞という形で表わされる。

(23) E　lilo　auane‘i ka‘u　ka‘au malolo　iā　‘oe?
　TAM 消える INT　私の 40　トビウオ ～に あなた
「私の 40 匹のトビウオがあなたのものになってしまうのか」
Fornander (1918-1919:127)

(24) Nolaila, nonoi　mai　la　lākou　i　kā Kuapakaa ka‘au malolo, ...
　そこで 懇願する DIR DEM　彼ら ～を　K.の　40　トビウオ
「そこで、彼らは K.の 40 匹のトビウオを懇願した。」Fornander (1918-1919:127)

(23)では k-所有形 ka‘u「私の」が、(24)では k-所有形 kā Kuapakaa「Kuapakaa の」がそれぞれ ka‘au「40」の前に付加されている。今回、k-所有形が数詞の前に付加されている用例を探したところ、NUM_4 の前に k-所有形が用いられている(23)や(24)のような例はいくつも見つかったが、一方、他の数詞の前に k-所有形が用いられている例は見つからなかった。

3.4.　統語論的特性のまとめ

数詞の 4 グループ全てについて、言及する名詞の前に置くことができるという点では一致していた。この点は他の語類と比べて最も顕著な数詞らしい特性であると考えられる。しかしながら、NUM_3 と NUM_4 の二つは、名詞と同じように複数指標と共起し、＜その数詞が表わす数が複数単位存在する＞という意味を表わす、という点で NUM_1 や NUM_2 とは異なっていた。また、他の数詞とは異なり、NUM_4 は k-所有形が前に付加されることがあるという点で、他の数詞とは異なり、名詞により近い特性を持っていることが示された。

このように、全体的に、NUM_4 は NUM_1 や NUM_2 よりもむしろ、借用語である NUM_3 と類似しており、また、より名詞的な特性をいくつか持っていることが示された。

4.　意味的特性

NUM_1、NUM_2、NUM_3 はいろいろな名詞と共起して、その数を表わす。この節では、伝統的なカウントシステムで用いられる NUM_4 について、共起できる名詞に制限があるのか観る。Elbert and Pukui (1979:159)は NUM_4 の中の、特に ka‘au「40」について、魚を数えるのに用いると指摘している。実際、kāuna「４」と ka‘au「40」は魚の数を表わしている例文が多い。

(24) ...lawe　a‘e　la　‘oia　i　‘umeke　poi,　me　nā　kāuna ‘o‘opu,...
　取る　DIR　DEM 彼　～を　ボウル ポイ　～と　ART　4　オオプ

「...彼はポイ（つぶしたタロイモ）のボウルとオオプ（魚の名前）40 匹を取って..」
Fornander (1916-1917:353)

(25) ...e piha ana ‘e-lua ka‘au ‘anae i kahi wā ke laki nō ho‘i.
TAM 満たす DEM CLS-2 40 ボラ ～に ある 時 ～なら 運がいい INT
「運がよければボラ 80 匹を超えるだろう。」Kahā‘'ulelio (2006:12)

上の二つの例で、kāuna「4」が ‘o‘opu という魚の ka‘au「40」が‘anae「ボラ」という魚の数をそれぞれ表わしている。しかしながら、実際には、NUM_4 は魚以外にもいろいろなものの数を表わす例がある。

(26) ...mai ke kanakolu ihe a hiki i ka ‘e-lua ka‘au,...
～から ART 30 槍 ～まで ART CLS-2 40
「..30 本の槍から 80 本まで..」Fornander (1916-1917:269)

ここでは ka‘au「40」が魚ではなく、槍の数を表わしている。他の NUM_4 の数詞もいろいろなものの数を表わすのに用いられている。

(27) ...a me nā kāuna uku.
～と ART-PL 4 蚤
「…そして蚤が 4 の数倍匹」Fornander (1918-1919:701)

(28) ...ho‘o-kahi kāuna mai‘a,...
CLS-1 4 バナナ
「...バナナ 4 個..」（Fornander 1916-1917:91)

(29) ...‘o ka nui o na kanaka o kekahi kaua ‘e-kolu lau...
NC ART 数 ～の ART-PL 人 ～の ある 戦 CLS-3 400
「...ある戦の人々の数は 1200...」Fornander (1916-1917:365)

上の例では、それぞれ、uku「蚤」、mai‘a「バナナ」、kanaka「人」の数を表わすのに用いられている。このように、NUM_4 が共起する名詞については、特に厳密な制限はないと考えられる。

共起する名詞の制限については、特に明確な差は見られなかったが、意味的特性に差が見られる点として可能性があるのは、基数詞としての意味に加えて、序数詞の意味を表わすかどうか、ということである。Elbert and Pukui (1979:160)が指摘するように、他の数詞には数量を表わす奇数詞としての意味以外に、順序を表わす序数詞の意味を表わす用法がある。[8]

(30) ka lua o nā hale
ART 2 ～の ART-PL 家

「家々のうちの二番目」　Elbert and Pukui (1979:160)

一方、NUM_4 についてはこのような序数詞としての意味を表わす用例は見つからなかった。NUM_4 はものの数を四つずつまとめて数えていく伝統的なカウントシステムに用いられる数詞である。四つずつまとめるという作業は順番を表わす際には馴染みにくいものと考えると、これはむしろ自然なことと考えられるかもしれない。

5. 結び

最も基本的な一桁数詞である NUM_1 は他の語類とは違う独自の、いわば数詞らしい特性を最も多く持っており、典型的な数詞であるといえる。NUM_2 も NUM_1 に次いで、典型的な数詞と考えられる。一方、NUM_3 はいくつかの点で、より名詞に近い特性を持っていた。本稿の主な分析対象である NUM_4 はハワイの伝統的なカウントシステムで用いられる数詞であるにもかかわらず、興味深いことに NUM_3 とほぼ同じ特性を持っていることが示された。すなわち、NUM_4 と同様、いくつかの点でより名詞に近い特性を持っているということである。

謝辞

* 本稿は平成 12 年度～13 年度文部科学省科学研究費補助金奨励研究（A）「名詞文・数詞文等の基本構文に関する諸問題解明のためのポリネシア諸語間の対照研究」（課題番号１２７１０２７３）による研究成果の一部を活用したものである。貴重な御指摘をいただいた査読者の方に、謝意を申し上げたい。尚、本稿に残る誤りや不備は全て筆者一人のみが負うものである。

注

[1] 100 を表す haneli 以外は Pukui and Elbert (1986)に収録されている形を代表形としてあげた。カッコ内はより古い文献等で見られる別形を示す。100 については、Pukui and Elbert (1986)には hanele という形が示されているが、実際には haneli が一般的であり、Hopkins (1992)などの教科書でも haneli が用いられている。

[2] 40 については、伝統的な数え方で専ら用いられる数詞 ka‘au という形に加えて、一般的にも用いられる数詞 kanahā も用いられる。この他、Elbert and Pukui (1979:162)が、タパ布やカヌーを数える際に稀に用いられる 40 を表わす数字として‘iako をあげている。

[3] 本稿で用いる略号は以下のとおりである。ART:冠詞、CLS:分類辞、CON:結合辞、DEM:指示詞、DIR:方向詞、INT:強調辞、NC:中立格、NEG:否定辞、PAS:受動態、PL:複数辞、TAM:時制・相マーカー、

[4] keu を使って端数を表す表現は、「10 日間」とういう時間のまとまりを表わす単語 anahulu とも使われることがある。

[5] 接頭辞‘a-の累加的な意味については塩谷(2000)を参照。

[6] この he についてはいろいろな分析があるが、ここでは中立格前置詞と不定冠詞の機能が統合された形として分析する。

[7] 複数小辞 mau は NUM_1 や NUM_2 と頻繁に共起するが、その場合には、NUM_1 や NUM_2 が示す数が複数存在するという意味ではなく、NUM_1 や NUM_2 によって数が表わされている名詞と関連するものである。

例えば、‘elua mau i‘a 「2 匹の魚」では、複数小辞 mau は「2 匹」が複数、すなわち 4 匹か 6 匹か 8 匹か、存在するということではなく、単に、i‘a「魚」が 2 匹、すなわち、複数匹存在するということを表わしている。従って、NUM_3 の前に付加される用例とは機能が全く異なっている。

[8] 用例は挙がっていないが、Hawaiian Phrase Book (1968)の序数詞一覧には NUM_2 や NUM_3 の序数詞形もあげられている。

参考文献

Beckwith, Martha W. (1911-2). The Hawaiian Romance of Laieikawai. *U.S. Bureau of American Ethnology, Thirty-third annual report*, 2850677, Washington D.C.

Beckwith, Martha W. (1932). *Kepelino's Traditions of Hawaii*. Bernice P. Bishop Museum Bulletin 95. Honolulu: Bishop Museum Press.

Corbett, G. G. (1978). Numerous Squishes and Squishy Numerals in Slavonic. In Bernard Comrie, ed., *Classification of Grammatical Categories*, 43-73. Edmonton: Linguistic Research.

Elbert, Samuel H. and Mary K. Pukui. (1979). *Hawaiian Grammar*. Honolulu: University of Hawai‘i Press.

Fornander, Abraham. (1916-1917). *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. IV. Honolulu: Bishop Museum Press.

Fornander, Abraham. (1918-1919). *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. V. Honolulu: Bishop Museum Press.

Hawaiian Laws 1841-1842. (1994). Reprinted by Ted Adameck.

Hawaiian Phrase Book. (1968). Vermont and Tokyo: Charles E. Tuttle Co.

Ka Ho‘oilina. Journal of Hawaiian Language Sources, vol.2.

Hopkins, Alberta P. (1992). *Ka Lei Ha‘aheo*. Honolulu: University of Hawai‘i Press.

Kahā‘ulelio, Daniel. (2006). *Ka ‘Oihana Lawai‘a*. Honolulu: Bishop Museum Press.

Kahiolo, G. W. (1974). *He moolelo No Kamapuaa*. Honolulu: University of Hawaii.

Malo, Davida. (1987). *Ka Moolelo Hawaii*. Honolulu: The Folk Press.

Nakuina, Moses. (1902). *Moolelo Hawaii o Pakaa a me Ku-a-Pakaa*. Privately Printed.

Pukui, Mary K. and Samuel H. Elbert. (1986). *Hawaiian Dictionary*, revised and enlarged edition. Honolulu: University of Hawai‘i Press.

塩谷亨. (2000). ハワイ語の数詞接辞について. *名古屋大学言語学論集*, vol. 16, 67-72.

執筆者紹介
氏名：塩谷亨
所属：室蘭工業大学大学院工学研究科ひと文化系領域
Email：shionoya@mmm.muroran-it.ac.jp